

所内研修②「幼稚園教育について」

今年度から配置された「幼児教育担当主事」の嶺井洋子指導主事を講師に10月30日(木)に、所内研修②「幼稚園教育について」を実施しました。

子どもが初めて出会う学校である「幼稚園」の重要性やその基礎の理解を深めることができました。

【講話の主な内容】

- 1 幼稚園教育の法的な位置づけ
 - (1) 教育基本法第11条(幼児期の教育)
 - (2) 学校教育法 第3章 幼稚園 第22条(幼稚園教育の目的)
 - (3) 学校教育法 第3章 幼稚園 第23条 5領域と関係する目標
 - ① 健康 ② 人間関係 ③ 環境 ④ 言葉 ⑤ 表現
- 2 幼稚園教育の基本→幼稚園生活全体を通して行われる
 - (1) 幼稚園教育の特質→「環境を通して行う教育」を基本とする。
 - ① 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開
 - ② 遊びを通しての指導を中心としねらいが達成される
 - ③ 一人一人の発達の特性に応じる
 - (2) 主体的な活動としての遊び
「遊び込む・のめり込む・夢中になる」
 - (3) 環境を構成するとは
 - ① 状況をつくる ② 幼児の活動に沿って環境を構成する
 - (4) 環境を構成する視点
 - ① 発達の時期に即した環境 ② 興味や欲求に応じた環境
 - ③ 生活の流れに応じた環境
 - (5) 子どもの育ちと5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
 - (6) 幼稚園生活の1日→教育課程にかかる教育時間・教育課程例) 教具の整理整頓の仕方、幼児の作品の取り扱い、行事の事前学習、戸外遊びの手立て等。
- 3 子ども、子育て支援新制度
 - (1) 平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法
 - ① 子ども・子育て支援法 ② 認定こども園法の一部改正
 - ③ 子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律に基づく制度のこと。
 - (2) 制度の下で予定されている取組
 - ① 「認定こども園」の普及を図る。
 - ② 保育の場を増やし、待機児童を減らす。
 - ③ 子育て支援の量の拡充や質の向上を進める
- 4 幼稚園教師の役割
 - (1) 幼児のよき理解者
 - (2) 幼児との共同作業者
 - (3) あこがれを形成するモデル
 - (4) 遊びの援助者

11月の行事予定

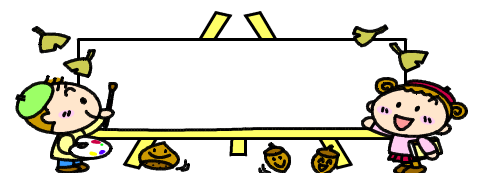
- 4日 所外研修①
- 5日 所内検討会①(研修計画)
- 〃 琉大との第1回連携推進会議
- 7日 所外研修②
- 10日 所外研修③
- 11日 所外研修④
- 12日 所長講話②
- 13日 クラブ 三線①
- 14日 個別ヒヤリング
- 17日 幼稚園実地研修(幼稚園研究員)
- 19日 宿泊研修(～21日)
- 25日 指導講師検討会(～28日)
- 26日 小中研究主任研修会②
- 27日 所外研修⑤
- 〃 クラブ 書道③
- 28日 所長講話(幼稚園①)
- 〃 職務会、お弁当会



写真1 幼児教育担当指導主事



写真2 研修の様子



教育研究員の感想

自分が勉強してきた理論（幼稚園の法的位置づけや幼児教育の特質・5領域等）、「環境をとおして行う教育」「幼児の主体的な活動」「遊びを通した総合的な指導」「教師の役割」等、言葉としては頭に入っていたのですが、それらが図式化・系統化されたことですっきりしていました。幼稚園教育の基本でありとても重要な部分であるのでしっかりと自分のものにしていきたいと思います。

写真で見る幼稚園での子ども達が遊んでいる様子や表情はいつ見てもいいものだなと感じるとともに、そこでなにが育っているのか、その環境構成の意図はなにか、等読み取ることが大切ではないかと感じました。道具や用具の整理の仕方、動物園に行く前の遊びの様子、子ども達の製作した作品の掲示方法など、私の研究テーマに関する内容の写真も多く、参考にしていきたいと思います。

小・中学校の先生方が幼稚園教育について理解を深めていける研修の場があることを素晴らしいと思いました。（稲嶺あゆみ）

幼稚園は「環境を通して行う教育」を基本とし、遊びの中で園児同士が学び合い、助け合い、園児が自主的に活動できるよう、教師が先を見通して計画的に準備を行っているのすごいいいと思いました。小学校でも準備が大事だと言われているのですが、目の前のことをこなすだけで精一杯になり、なかなか先を見通して計画・準備できていません。これからは余裕を持って準備できるように早めに計画していきたいと思います。

また、新制度がスタートしていく中で幼稚園の先生方の仕事内容が大きく変わり、預かり保育では市町村ごとに対応が違うため、午後の時間も当番を決め、交代で預かり保育の仕事を行っているそうです。

講話の中で出てきた「認定こども園」「地域型保育」という言葉も初めて知ったので、その制度についてもう少し調べてみようと思いました。（安座名有里）

環境を整え、意図した教育を行う幼稚園教育のすごさを知ることができました。また、学びの芽生えは、「幼児期における遊びの中での学び。学ぶと言うことを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて様々なことを学んでいくこと。」が、研究テーマの小学校体育での、夢中になって体を動かす楽しい体育と幼稚園の遊びが似ていることに教育の一貫性を感じました。今回の話を聞いて幼児教育から小学校へと学ぶことがたくさんあることを感じました。

県外の幼稚園は私立が9割近くを占めていることを初めて知り、沖縄の各小学校の側に幼稚園というスタイルは特別だと言うことも驚きました。

次年度より、新制度の「子ども・子育て支援」もスタートするので、新しい教育にも常にアンテナを張り巡らせ関心を持っていたいと思います。（勢理客貴之）

幼稚園は小学校に隣接しているのですが、普段はあまり交流がなく、様子があまり分かっていませんでした。講話を聞いて、幼児は「遊びの中で学ぶ」こと、教師はただ遊ばせるのではなく、ねらいが達成できるように環境づくりをしていることが分かりました。子どもの特性を考えて、前もって計画を立てたり、準備をしたりすることも多いだろうと感じました。子どもを肯定的にみることで情緒が安定する、教師が子どものあこがれを形成するモデルになるという所が小学校でも活かせると思いました。

幼小連携とはよく聞くが、幼小中についてある程度知っておくことで校種間のつながりを意識した指導ができると確信できました。（比嘉俊雄）

中学校になると生きる力が求められているが、幼児には生きる力の「基礎」が求められているということがわかりました。幼児が育つ過程で重要なこと、それは5領域と言われるそれぞれの力が育つ過程を見とれるかどうかであること、5領域における力を養うことを目指して遊びが行われていることを知ってとてもためになりました。その意識で幼児を見つめ直したいと思います。

幼児は遊びの中にたくさん「学び」を見つけているのだと知りました。本人が自覚しようとしていまいと、決して無駄な学びはないということ。幼児教育においては、「芽生え」がキーワード。芽を出させること。先生方はそのために「仕かけ」を試行錯誤して幼児の芽を見ようとしていること。園児の学びの中に、たくさんの芽が確認できることを願っています。たくさんのスライドで、先生方が環境構成のために工夫されていることを知ることができました。

情緒の安定があって、幼児は自分らしくいることができる、主体的になれる、そして、発達に必要な体験を得ていくということも知ることができました。改めて情緒の大切さを実感しました。（古謝栄子）